

宗祇さん

第8号

令和6年2月29日発行

裾野市宗祇法師の会

世にふるもさらに時雨の宿りかな

宗祇法師

我がまちに見る宗祇の歌碑 その一

宗祇の名を一躍有名にしたこの名句は、応仁の乱の起こった1467年、戦乱を避けて下った信濃の国で詠まれたと言われています。時雨を人生のはかなさ、短さの比喩としたものです。

幕末のものとするこの歌碑は、かつては旧246、二本松南の交差点にありましたが、現在は花園橋角に移されています。尚、宗祇を深く敬愛していた芭蕉は宗祇を慕い、同じ時雨の句を作っています。

世にふるもさらに宗祇の宿りかな 芭蕉

